

森脇勇人 後援会だより

Vol.5

思いをひとつに

松江市議会議員 森脇勇人



議会会期中の三月十一日午後二時四十六分、東日本大震災が起りました。八月七日現在、死者一五六〇〇人以上、いまだ行方不明四八〇〇人以上ということですから。災害現場の映像が流されるたび、やりきれない思いとあまりの惨状に自然と涙が出てくるものでした。今日国民が皆同じ気持ちで被災地を思い、一日も早い復興を望んでいます。

福島第一原子力発電所の事故は、同じ原発が立地する松江市にとっても大きな課題となりました。特に津波対策は、島根原子力発電所では*TP五・六mを想定されていますが、今回の津波は、十四m以上とも言われています。同じ被害にあった女川原子力発電所は*OP十四・八mと高い位置にあったこと、福島第二原子力発電所は、津波の高さがOP七・五mと津波が第一に比べ低かったこと、海水ポンプや非常用電源装置に被害が少なかったためと思われまます。

中国電力には、津波対策・地震対策とも万全を期していただき、絶対に想定外などということのない様取り組んでいただきたいと思います。

市議会任期も折り返しの二年が過ぎました。後半は人事も変わりますが、引き続き市民の皆様のご指導をよろしくお願ひします。

*TP (東京湾基準水位) OP (小名浜港工事基準水位)

議会では四月臨時会を開き、東北地方太平洋沖地震に係る支援経費として被災地への義援金、被災者受け入れ住宅修繕費、被災者支援金、市民からの支援物資の受付経費、災害備蓄品の補充経費として、五一〇五万円を可決し支援することになりました。

議会報告

予算特別委員会の総括質疑を行いました。

一般会計について

Q 一般財源総額において、市税の伸びによる増加を計上しているが松江市の景気回復基調をどのように分析しているのか？

A 松江財務事務所の県内景気分析、内閣府の二月の月例報告などを参考に市税を増額計上しました。ただし、樂觀視出来ないため、今後何らかの手当てが必要とも思っている。雇用情勢については、厳しい状況が続いていると認識しており、雇用奨励金の支給やスキルアップ事業など雇用対策に力を入れていくとともに、特段の注意を払っていく必要があります。

Q 二十二年年度の事業繰越分とあわせると普通建設事業費も通年とほぼ変わらないと認識するが、本来事業繰越額がこのように多いのは正常か？緊急経済対策の緊急をどのように認識しているのか？

A 繰越は極力避けなければならぬが、国の公布決定の関係で年度末に予算措置することから繰越が多くなります。二十三年度は約一七億円の繰越となっており二十三年度の実質的な普通建設事業は

一一三億四千万円となります。また緊急経済対策については、国が中心になり、県や市が級長して取り組み成果が出るものと思っております。いずれにしても速やかな事業執行に努め年度内の完了、事業効果が早期に表れ、地域経済の下支えが出来るよう取り組みます。

Q 土地開発公社保有の土地について、総じて過去の目的と現在がそぐわないものが出てきていると思うが、見直しは都度検討されているのか？

A 本来の活用目的が消失し、活用の目的が立っていないものは、平成二十年度末には十件、四六億程度程度の土地があった。良好な姿ではないため、二十一年には三件五億二千万円、二十二年には一件一億五千万円の土地を取得しするとともに民間への売却などもいたしたい。現在残りは、六件三九億三千万円余りとなっており、活用計画を作成し適宜計画的な買取を図り将来の財政負担とならないよう努めていきたい。

特別会計について

Q 国民健康保険について、今回の保険料の引き上げは昨年と同じく医療費の増大に対応したもののだが、医療費の抑制のため健康づくりなどの事業を行うとしているが、効果や事業の今後を伺う。

A 医療費を毎年二%削減する目標を立て健康づくりによる医療費抑制に取り組んでいる。女性特有のがん検診無料クーポン券の発行や大型ショッピングセンターでの検診の実施などに取り組み一定の成果が得られている。今後は国保人間ドックなど関

特定健康診査など組み合わせ検診事業を充実させたい。

Q その他、無職という方が全体の半分を占めるようになり、低所得者が多くなったため会計が困窮していると思うが、分析と対策を伺う。

A 昭和三十五年当時は国保加入者の九五%が有職者だったが、現在は年金生活者など無職の方が四割以上を占めている。また基礎控除後の所得のない世帯の割合が本年度は国保世帯の四〇%に達している。高齢化に伴い被保険者一人当たりの医療費も急増しており、この十年間で四〇%近く増加しました。この結果平成十六年度以降赤字が続く財政調整基金も底をつく状況となっています。状況が制度設計時の状況から大きく変質しているため、国の責任を明確され、制度の長期的な安定につながる改革がされることを要望したい。

企業会計について

Q ガス局について一人当たりの営業収益と営業費用をどのように見ているのか？二十三年度は受注工事収益を伸ばるようになっているがそれに伴うであろう機器販売収益を減額で計上しているのは矛盾していないか？

A ガス局の一人当たりの営業収益は、五一、二二万四千円で前年度より四一六万一千円の増を見込んでいます。営業費用は横ばいの四、五八六万九千円としています。より一層の努力を行い単年度黒字を継続することを目指してまいります。機器販売については関連会社育成の観点からその業務を担当させることとしたため減額となったものです。

Q 自動車運送事業について、職員一人当たりの営業収益と営業費用をどのように見ているのか？ 貸切運送収益を減額見込みで示すのはあまりにも消極的ではないか。収益増に向けて営業強化をどのように考えているのか？

A 一人当たりの営業収益は、五二四万八千円営業費用は七一九万五千円の差引き一九四万七千円の赤字となっています。人件費が一人当たり四七三万七千円となっており営業収益で賄っている状況です。今後も営業収益の増に努め更なる営業費用の減少を図りたい。

貸切運送事業収益については原子力発電所三号機建設に伴う工事関係者運送(四千万円)の終了に伴い減少はやむを得ないと考えています。原発輸送以外で一千万円の増を見込んでいます。取り巻く環境は厳しく今後あり方について検討していきたいと思ひます。

Q 病院事業において、病床の連携は現在どうなっているのか。現在のコスト意識や経営改善意識の向上など状況はどうか？

A 病床の利用率を確保し新命題と思ひている。開業医との連携は、紹介患者の割合が、二十年度は三二・七%だったが現時点では四一・九%に増加しています。開業医の先生方と意見交換も予定しており一層の診療連携に取り組むたい。コスト意識については、日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価を本年七月に受審することに より運営の効率性を図りたいと考えており、職員一丸となって取り組んでいるところであります。

松江市を取り巻く道路環境

中国横断自動車道尾道松江線

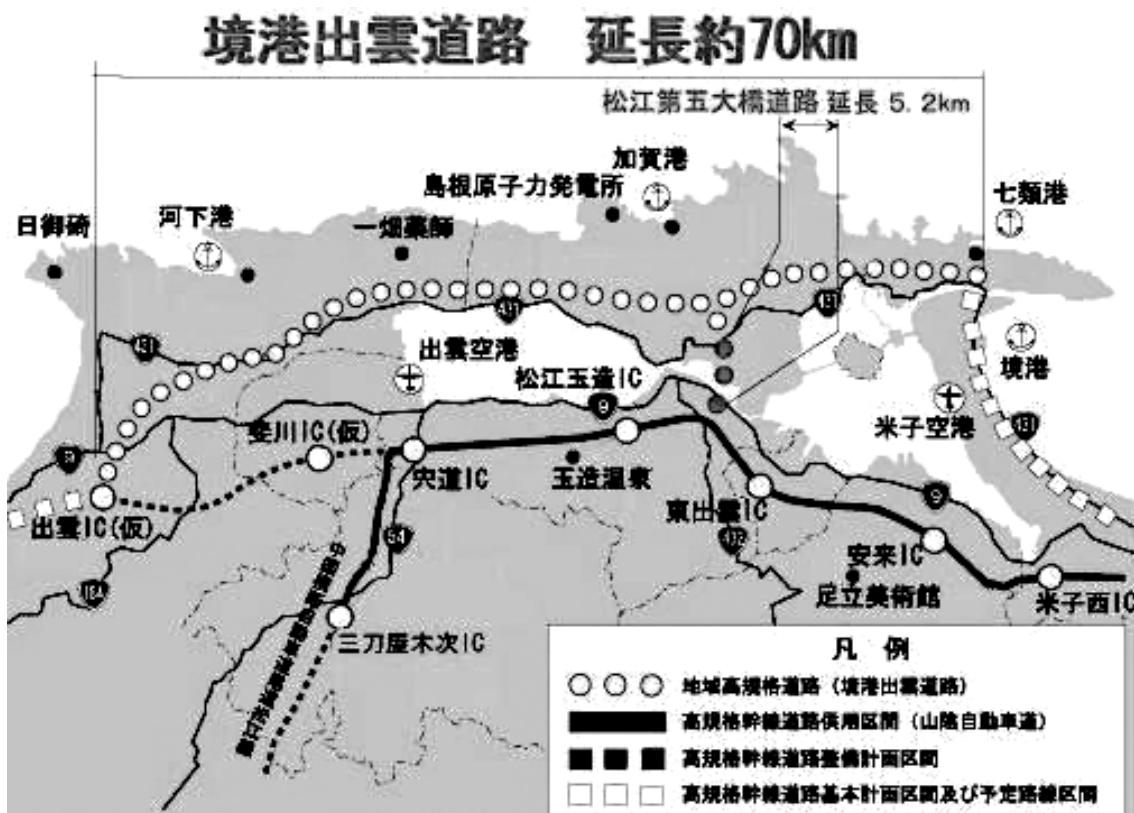
尾道～三次～松江に至る延長一三七kmの高速自動車道です。

平成二十四年度には、松江～三次までが開通し、二十六年には全線が暫定供用の予定です。全線供用されずと、瀬戸内しまなみ海道と一体となり山陰～山陽～四国の連携強化

化と沿線の社会経済や生活文化の発展が期待されます。

〔進捗状況〕

- 平成二十二年十一月 尾道JCT～世羅IC間供用（暫定）
- 平成二十三年 吉田掛合IC～三刀屋木次IC間供用（暫定）予定



- 平成二十五年 三次JCT～IC～吉田掛合IC間供用（暫定）予定

- 平成二十五年 吉舎IC～三次JCT・IC間供用（暫定）予定
- 平成二十六年 世羅IC～吉舎IC間供用（暫定）予定（前線供用（暫定））

境港出雲道路

出雲IC～境水道大橋までの延長七〇kmの地域高規格道路です。この一部として松江だんだん道路（松江第五大橋道路）が整備されています。（上図）

松江だんだん道路（松江第五大橋道路）

平成二十四年度完成予定で、山陰道と国道四三一号を結ぶ松江街地の環状道路として機能する、LⅡ五・二kmの地域高規格道路です。インターチェンジ名称決定。

関連道路

都市計画道路東津田中央線が三月二十三日に開通しました。一般県道本庄福富線（西尾ICアクセス道路LⅡ一・六km）平成十六年度から整備していた西尾ICアクセス道路が三月二十三日に開通しました。

▼松江だんだん道路高架下等利用計画が策定されました。



と一部護岸工事が行われます。

美保関町の状況

松江鹿島美保関線（片江工区）二十三年内示 九四〇〇万円
 昨年からの道路工と、地権者交渉が行われています。
 北浦工区 二十三年内示一九〇〇万円

▼松江鹿島美保関線瀬崎工区
 本年度は野井～笠浦間の用地買収

▼一般国道四三一号川津バイパス
 地権者交渉が二十年以上前から懸案でしたが、二年前から地権者である企業に私が勤めていたこともあり、地権者交渉のお手伝いをさせていただきますました。
 昨年地権者企業のご理解を得て交渉に合意していただきました。川津バイパス坂本工区もいよいよ着工してまいります。

昨年同僚議員と共に、地権者交渉を手伝っていただきました。ご理解を得て同意していただきありがとうございます。

本年度は、用地補償と一部道路改良が行われます。本年度松江市事業で河川改良の設計予算が一〇〇万円、その中で河川改修における用地が選定され交渉されることとなります。来年度以降工事予算が見込まれます。

河川改修事業においては、過疎債が使えないことが分かり同僚議員と共に青木参議院議員にご相談したところ、合併特例債を利用した事業が予定されることになりました。

松江鹿島美保関線 惣津地区工事
(県) 平成二十二年度補正予算で四〇〇〇万円 測量設計・道路工
(県) 境美保関線(海崎) 二十三年度内示四一〇〇万円 道路工・舗装・LⅡ八〇m
かねてから越波による対策が要望

六月定例会の冒頭、松浦市長から東日本大震災・原発事故を契機に改めた今後の主要施策の考え方が述べられました。

1. 災害に強いまちづくり
総合体育館を中心部の避難拠点としての役割と機能を、構想に盛り込み早期完成を目指したい。

2. 原発災害の備え
古浦西長江線は避難道路として早期完成を目指したい。道路橋梁など都市基盤整備については早期実施や再点検など検討を進めたい。

3. 子育て・教育・雇用・高齢者・

されていきました福浦地区の旧南中前(二〇〇M)と玉井斎場前(一五〇M)の対策工事に平成二十二年度補正で約六九〇〇万円・二十三年度内示で六五七〇万円が予定されています。合わせて道路幅を三m拡幅する工事であり、地域の皆様のご協力に感謝いたします。

また、長年の懸案でした男鹿の公有水面埋立地における道路の直線化も予定されています。工事には様々な弊害もありますが、いずれにしても地域の皆様のご理解が必要です。ご協力のほど宜しくお願いします。

万原橋 改良 二十三年度内示三〇〇〇万円
林道については二十二年度補正で開設延長一九四m・二十三年度当初で一〇〇mが予定されています。

障害者・コミュニティ維持など安心と住みやすさを実感いただけるよう事業の見直しや検討をおこないたい。

4. 法吉モデルを参考に万一の災害はもとより日常生活についても支援できるような仕組みづくりを進めたい。その時は市職員も各地域に出向き自ら汗をかき地域と一緒に広げたいと思う。

5. 市民サービスの提供を行い防

災拠点ともなるし諸機能は当面維持し公民館とは施設や機能、体制面で連携と複合化を図る必要がある。旧松江市の郊外周辺地域の公民館については、旧町村部とのバランスを考慮した機能について検討しなければならない。

6. 支所と公民館のあり方について

六月議会一般質問

1. 地震・津波対策について

● 庁舎・学校・支所・公民館など避難所の耐震化について
● 水道・ガス・電気等のライフラインに対する対策と対応は万全か
● 大規模災害時に避難路になるであろう松江大橋、境水道大橋などの橋の耐震は大丈夫か
● 港湾・漁港の津波に対する強度は、また防波堤・堤防の耐震化は

● 大橋川改修工事で、津波対策はできているか
● 災害時の避難誘導など横の連絡や避難指示の対応は
● 大規模災害時に「想定外」がないよう災害対策・安全対策の計画を

2. 震災後の経済状況について

● 震災発生後の地元経済への影響について、特に観光業への今後の影響は
● 住民の安全・安心のために公共事業予算の大幅増額は

て、外部検討委員会を設け今年度中方針を具体化した。

7. 中海市長会と宍道湖沿岸首長会議の連携に取り組みたい。

8. 安心・安全の視点での町づくりを最優先とし後期基本計画でLR T事業は具体化しない。

3. 大橋川改修事業について

4. 特例市への移行について

● 特例市移行にともない権限委譲とともに財源委譲もきちんとなるのか
● 権限委譲に伴う職員の増員はあるか

5. 安全安心なまちづくりについて

● 公民館単位の災害訓練など災害対応について
● 自治会や消防団などの役割分担について
● 安否確認などの平素からのシステム構築の必要性
● 先般の雪害、対応困難な地域もあった、自治会への補助制度の充実

6. 暮らしの向上について

● 今後の子育て支援の充実策は
● 松江らしい健康づくりメニューは

● 腸管出血性大腸菌O111への対応について

7. 企業立地と雇用促進

● 震災による企業拠点の分散化、松江市の企業立地、雇用促進は

8. 既存ブランド・新たなブランド開発と地域振興

● 新旧ブランド商品の松江市関連施設での販売は
● 新たなブランド開発で、松江市がわかるネーミングで販売展開としては
● 商工会議所・商工会・JF・JAと連携して開発・流通をセツトで取り組んで
● Rubyを支援して産業育成・雇用拡大・定住促進に結び付けて



松江市長との懇談の様子

平成23年度当初予算について

平成23年度一般会計予算は、総額924億8,600万円となり前年度予算に比べ6.3%62億6,500万円の減となりました。これは主に新ゴミ施設や、歴史館などの大規模事業の終了によるものです。また緊急経済対策事業の終了により普通建設事業が大幅に減ったことによるものです。

歳入では、市税において景気が持ち直しつつあるため個人市民税、法人市民税など3.9%の増加を見込み約262億7千万円、地方交付税は地方財政計画に沿って積算され0.4%増の約221億2600万円、国庫支出金は電源立地対策交付金や補助金が、歴史館整備事業や新ゴミ処理施設建設事業の終了に伴い19.5%減少し約130億8700万円、市債は新ゴミ処理施設建設事業、宍道幼稚園整備事業、地方交付税の振替えである臨時財政対策債の減少により46.6%減の約84億円、地方特例交付金は児童手当の拡充分などの減額により19.2%減少し2億8423万6千円となりました。

歳出においては、子ども手当・生活保護費・私立保育所運営費などの増加により12.4%増の約192億2300万円、投資的経費である普通建設事業費は、22年度約207億5千万円でしたが、23年度は53.4%減の約96億7千万円となり110億円余りの削減となりました。

平成23年度当初予算主な事業の概要

安心安全なまちづくり

大橋川改修関連市街地整備調査事業	1,043万4千円
(仮称)東分署整備事業	1,456万2千円
(総事業費1億9,936万2千円、H24:1億8,480万円)	
高機能消防指令センター整備事業	849万5千円
屋外スピーカ整備事業(継)	2億9,823万2千円
市道整備事業	5億2000万円
地域ネットワーク道路整備事業	11億5,160万4千円
(主要道路、連携道路を国庫補助や合併特例債、過疎債などの財源活用したもの)	
河川・排水路改良工事	9,000万円

「暮らし」の質向上

保育所施設整備補助金(170名、3年間で785名拡充)	2億9,600万円
幼稚園保育所施設整備(3箇所)	4億1,246万9千円
保育所・幼稚園の第3子保育料の無料化	1億5,425万1千円
病児・病後児保育事業	5,831万9千円
乳幼児等医療費助成	5億9,658万2千円
子ども手当	38億6,734万8千円
発達・教育相談支援センター事業	3,983万7千円
小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル展示事業	677万7千円
美保関歴史体験資料館移設事業	3,984万3千円
小中学校整備事業	17億1,540万5千円
学校空調整備事業	2,520万円
郊外団地定住促進事業・子育て世代定住促進事業	1,200万円
戸建賃貸住宅改修支援事業	490万円

若者の活力を町に広げる

水辺の芸術祭事業補助金	560万円
青年会議所開催事業	74万1千円
日本女性会議開催事業	664万1千円
公民館整備事業	4億744万1千円
(大庭公民館・津田公民館は建替え、八雲公民館をアルパホールに増築移転)	

高齢者が安心して暮らせる

買物ビジネス参入支援事業	254万2千円
介護予防事業	6,562万6千円
介護基盤緊急整備事業	4億2,285万8千円
(通所施設4箇所・入居施設 認知対応型グループホーム6箇所)	
高齢者バス割引乗車事業	6,424万6千円
(70歳以上の高齢者に対し100円の割引・市営バス・日の丸バス・一畑バス)	

障害者が生き生きと暮らせる

障害者サポートステーション事業	685万1千円
(相談受付業務を集約し、松江市総合福祉センター3Fに設置)	
障害者インターンシップ事業	1,100万円
(障害者の短期職場実習を実施する企業に雇用奨励金を支給するもの)	
路線バス優待事業	9,415万1千円
(障害者・原爆被爆者の外出支援のためバス運賃の本人負担額の全部を助成するもの)	

健康づくり

健康づくり支援事業	245万1千円
健康なまちづくり支援事業	207万9千円
がん検診事業(女性特有のがん検診を含む)	2億1,283万8千円
がん診療機能の充実	1,100万円
予防接種事業(子宮頸がん予防ワクチン等含む)	4億679万円

松江市総合体育館の建設

新体育館建設基本構想策定事業	88万6千円
島根サノオマジック支援事業	100万円

公共交通の利用促進

公共交通利用事業促進事業	400万円
--------------	-------

交通社会実験事業	1,522万円
交通まちづくり市民共同事業	504万円
自動車運送事業	9億6,007万8千円

企業立地と雇用対策

企業立地支援事業	1億5,583万3千円
(電気料金の半額から最大無料の制度を行い雇用の創出を図るもの。H23公付見込み132社)	
企業立地奨励補助金	6,148万6千円
(立地奨励9社・用地取得助成2社・雇用促進奨励2社の予定)	
新卒未就職者スキルアップ事業	6,000万円
雇用奨励金支給事業	4,000万円
(学校新卒者を新規雇用した市内中小企業に雇用奨励金を支給するもの。雇用1人につき10万円。上限2人20万円。)	
緊急雇用創出事業	1億9,151万9千円
(雇用機会の創出を図るため短期雇用を行うもの。「6ヶ月以内を1人として160人」)	
資金繰り安定化対応資金信用保証量補給金等	5,068万2千円

既存ブランドの一層のPRと産業振興 新たなブランド開発と地域振興

松江大根島牡丹振興対策事業	1,206万7千円
ルビーシティ松江プロジェクト	1,263万8千円
地域ブランド産地育成事業	2,942万7千円
水産物ブランド確立事業	1,303万5千円
港湾・漁港高度利用促進事業	3億2,020万円
農商工連携事業	667万4千円
中心市街地での地域特産品販売支援事業	91万円
新製品新技術開発補助金	900万円

松江開府400年記念事業・観光地の魅力UP

松江開府400年祭推進協議会負担金	1億4,986万9千円
松江城国宝化推進事業	5,027万1千円
(松江城の調査研究・市民運動の支援・懸賞金制度・耐震化診断・保存活用計画策定)	
松江歴史館事業	4,335万4千円
ホーラエンヤ記念館整備事業	1億6,958万8千円
歴史文化まちづくり事業(床几山周辺整備・明々庵整備)	3,584万6千円
興雲閣解体修理事業	479万8千円
インバウンド観光推進事業(韓国語・中国語対応職員雇用)	1,352万9千円

水郷・松江の水と緑にこだわった取り組み

宍道湖水質改善研究事業	396万4千円
屋外運動場芝生化事業	4,161万円
(23年度予定 島根小・大野小・忌部小・来待小・八雲小・秋鹿小)	
商店街振興補助金(新大橋商店街アーケード建替え)	4,500万円
屋上・壁面緑化推進事業	230万円
駐車場緑化事業	350万円
松山公園整備事業	2,993万7千円
太陽光発電導入促進事業補助金	3,796万7千円
(住宅用 出力1kw当たり4万8千円・上限3kw 14万4千円・250件)	
(事業所用 出力1kw当たり4万8千円・上限20kw 96万円・2件)	
エコクリーン松江管理運営費	8億2,854万2千円

平成の開府元年まちづくり

平成の開府元年まちづくり構想事業	700万円
松江市・東出雲町合併記念式典事業	398万5千円

その他

上水道施設改良事業	15億7,572万7千円
簡易水道建設改良事業	9億4,751万8千円
下水道建設改良事業	13億3,397万5千円
集落排水建設改良事業	1億285万円
都市ガス経年管対策事業	1億2,760万6千円
松江駅前地下駐車場事業	2,200万円